



昭和27年1月16日「赤井川村婦人団体連絡協議会」（提供：近藤正雄氏）

「戦後、婦人運動団体は全国で結成された。写真は赤井川村の初代メンバー。近藤氏の母親世代の女性達。」

あいさつ

新しい年度がスタートしました。年号も、村役場の人員体制も新しくなり変化の年となります。

今年度も、高齢者支援からの地域づくり。「誰もが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを、人生の最期までつづけることができる村をみんなで作ろう！」を目指して、活動を行ってまいります。

（赤井川村たすけあい隊メンバー 一同）

2019. 4
NO.2

「第2回 福祉の村づくり教室」が開催されました！

2月27日18時、健康支援センターにおいて「第2回 福祉の村づくり教室～老後も赤井川で暮らすために私たちができること～」が開催されました。この教室は昨年8月に都住民センターで開催された教室の第2弾で、住民が赤井川村で高齢になっても住み続けるためのヒントを、住民とともに考えるというものです。

講師には、生活支援体制整備事業や地域ケア会議のアドバイザーとして、赤井川村に関わっていただいている、一般社団法人ウェルビー・デザイン理事長の篠原辰二氏をお招きしました。



篠原氏

会場の設営準備や受付、運営は「赤井川村たすけあい隊」（以下、「たすけあい隊」。）のメンバーが担い、41名の皆様にご参加いただきました。ご参加された皆様、誠にありがとうございました。



意見交換の様子

今後、全国的に人口が半減することが予測されるなか、2025年までに、住まい・医療・介護・生活支援・予防を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の仕組みづくりとして、行政サービスだけではない、住民同士の助け合いを主とした地域づくりを進めるものとされています。赤井川村ではどのようなことを準備していくことが必要なのかを、参加者同士の意見交換を交えながら、講話が行われました。

意見交換では、「自分の老後はいつですか」「老後にどんな備えをしますか」といった、自分自身の老後について話し合いました。

また、「暮らしのなかでかけがえのないもの」を8つ考え、「じゃんけんで負けるごとに、それをあきらめる」という、ゲーム形式を取り入れた、かけがえのないものの中にも優先順位をつけなくてはならない場合があることを学び、意見交換の時間が過ぎても、おしゃべりが止まらないほどの、盛り上がりを見せました。



「かけがえのないもの」を守るじゃんけんゲーム

おわりに篠原氏は、「この地域でのつながりや支え合いを増やしていき、自分たちでできることを、自分たちで行うこと（DIY）を、めざしてほしい」と話され、教室は終了となりました。

今後もたすけあい隊では、住民が主体となる村の仕組みづくりを進めるため、このような教室を開催してまいります。都合によりご参加いただけなかった方々も、次回はぜひご参加いただければと思います。

「いろどり」タイトルロゴ決定



デザイン協力 札幌市立大学デザイン学部
作品応募数 タイトルロゴ 11 作品

本紙「いろどり」のタイトルロゴを札幌市立大学デザイン学部（大淵一博講師）の学生さんにご協力をいただき、コンテストを行いました。

去る3月12日に厳正な審査の結果、全11作品の中から上記のタイトルロゴに決定しました。



選考の様子

■デザインコンセプト

情報誌タイトル「いろどり」は自然豊かで四季折々の表情豊かな赤井川村を象徴しているため、「い」には春、「ろ」には夏、「ど」には秋、「り」には冬の表情をそれぞれ当てはめ、様々なモチーフを配置した。モチーフには、赤井川村の特産物も多く取り入れることで“赤井川村らしさ”を表現。

また、様々な保健福祉及び住民活動を紹介する紙面のため、そこに関わる様々な人たちの心情も複雑に関わり合っていることが想像できるため、「い」には期待感、「ろ」にはワクワクする気持ち、「ど」には落ち着きと満足感、「り」には哀愁といった表情を表現している。

応募いただいた他の10作品についてはご覧のとおりです。どの作品も赤井川村に想いを寄せながら作られたもので、選考会では予定の時間を超過するほど選考に迷いました。

いろどり

いろどり いろどり

いろどり

いろどり

いろどり

いろどり

いろどり

いろどり

いろどり

（次号では愛称ロゴについて報告する予定です。）

赤井川村のお宝！

2町内区会の健康学習会

毎年、保健推進員を中心に、村保健師による「健康学習会」が、各区会で行われています。今年のテーマは「健康寿命は、生活習慣の積み重ねです」です。これまでも、「住民健診」、「介護保険」、「デイサービス」、「認知症」など地域の皆さんが健康に興味を持ち、健康寿命を延ばしてもらうためのテーマで学習会を開催してきました。

2町内では、学習会の終了後、区会の有志お手製ランチを囲む昼食会や、ビンゴ大会、パークゴルフなどで各世代が交流を深める場となっています。



J A新おたる赤井川女性部

昭和36年に農協婦人部として発足。当時は会員数213名でした。設立から58年が経った現在の会員数は11名ですが、最近では若い仲間の参加が増えています。『鶴の子大豆』を使った味噌作りを中心に、「カルデラ味覚まつり」、「村文化祭」などのイベントに参加しています。

その他、食事会や芸術鑑賞会など、楽しく続けていくための、文化活動の企画も行っています。

活動内容、年会費、入会方法
などのお問い合わせは、女性
部事務局へ。
電話 0135-34-2525



赤井川温泉いこう会

「JA年金友の会赤井川支所」からのグループ。JA赤井川支所がなくなったことで、それまで友の会で年1回の温泉旅行を行っていましたが、メンバーを募ってリニューアル。「友の会」という縛りがなくなったことで、参加希望者を広く募ることができるようになりました。今年は3月に2泊3日で登別温泉へ。



興味がある方は、写真のメンバーに直接、お問い合わせしてください。

■場所 道内温泉地
■月日 毎年3月頃
■年会費 実費

この人は誰？ この場所はどこ？

第2回 樺本 敏文さん

昭和54年4月北海道警察に採用され20代後半まで道警本部機動隊に勤務。柔道の代表選手として、全国警察柔道大会団体戦優勝を収めた、講道館柔道5段。（ちなみに、現役選手は3～5段がほとんどと言われています。）

その後、念願だった刑事となり、「悪は眠らせない」を信条に、数多くの被疑者を逮捕してきました。

更に、一度は経験したいと考えていた「駐在所勤務」を希望し、平成27年4月から赤井川駐在所に着任。「今、村では何が起き、住民は警察に何を望んでいるか？」を心掛けながら、職務を行っているそうです。

「定年が近づいていますが、『手帳と拳銃を返納』するその日まで、赤井川村の人達が笑顔で暮らせる村づくりに貢献したい」と熱く語られました。

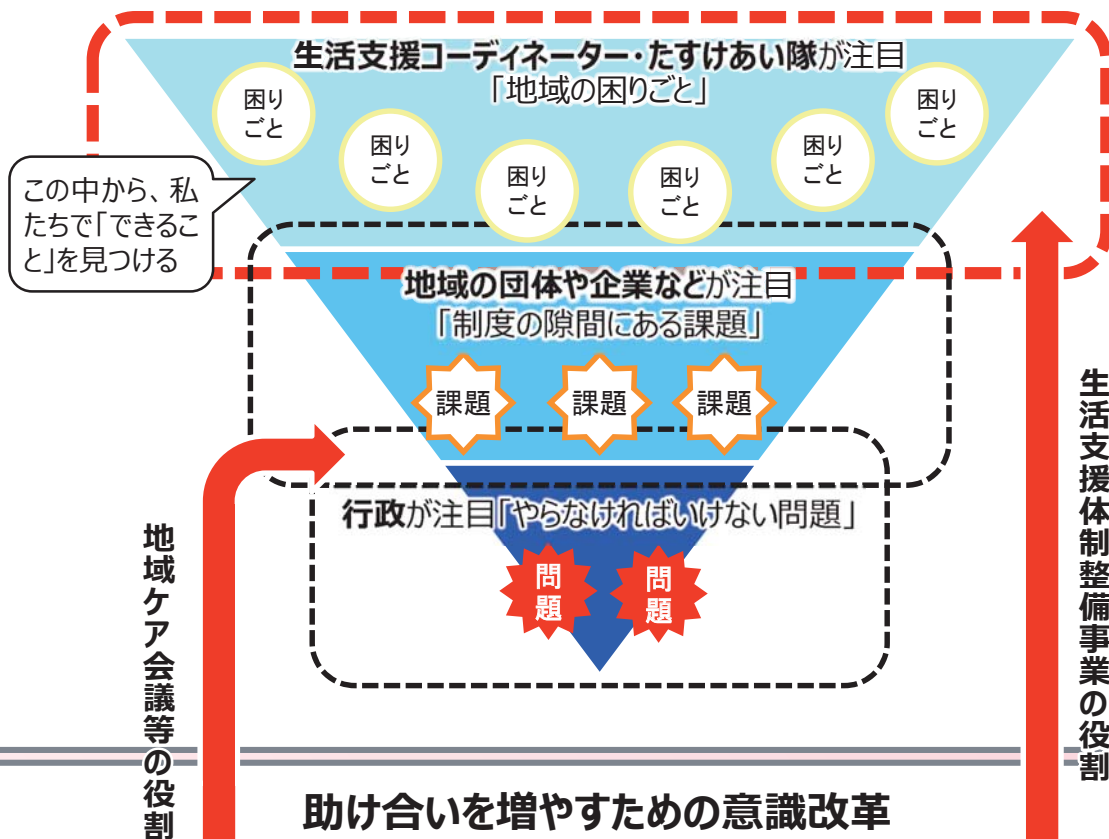


《表紙の写真募集します》

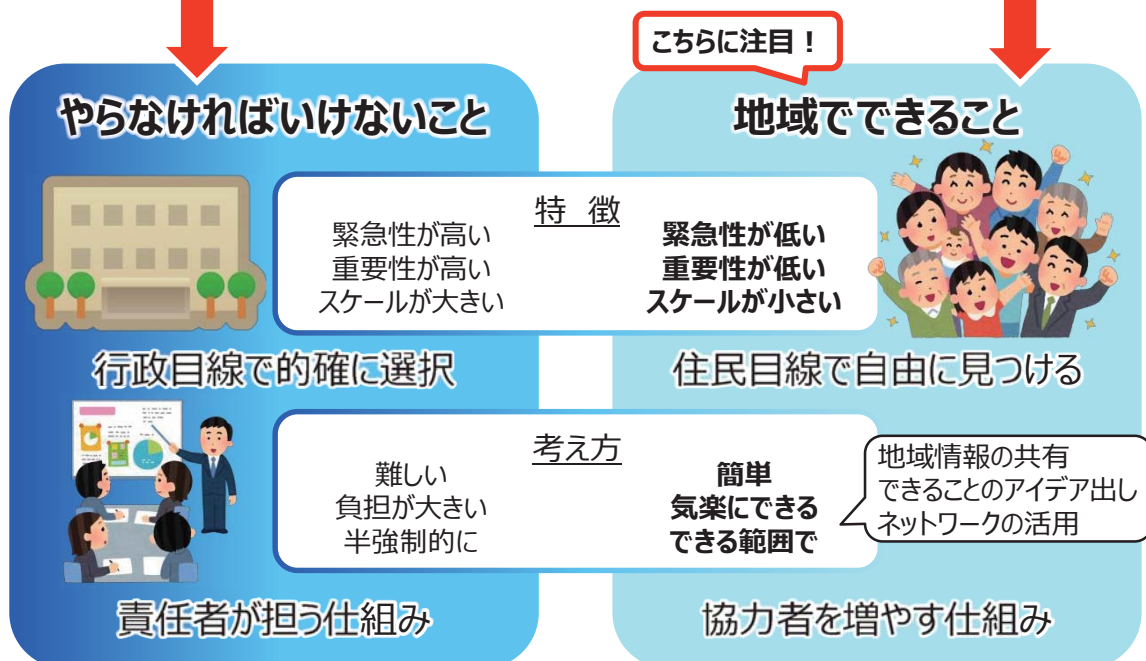
赤井川村の中で撮られた、昔の白黒写真を募集しています。撮られた年代、場所、何をしているところかなど、もしエピソードなどがあれば、あわせてお知らせください。

その他、「赤井川村のお宝!」「この人は誰?この場所はどこ?」に掲載の取組、人物、場所なども募集しています。「生活支援コーディネーター」、「赤井川村たすけあい隊」、「事務局」までご連絡ください。取材に伺います。

地域課題へのそれぞれの役割



助け合いを増やすための意識改革



公益財団法人さわか福祉財団資料 改変

発行日
発行・編集

平成31年4月15日（年4回発行）No.2
赤井川村たすけあい隊（赤井川村生活支援体制整備協議体）
事務局：赤井川村介護保険課
〒046-0501 余市郡赤井川村字赤井川318-1
（赤井川村健康支援センター内）
TEL：0135-35-2050 FAX：0135-35-2051
E-mail：kaigo2@akaigawa.com

